

環境コミュニケーション

出前授業による環境教育の展開

JR東日本では、持続可能な社会づくりに貢献するため、次代を担う子どもたちに対し、「環境問題」や「社会とのつながり」を理解してもらうための環境教育プログラムを2009年度からスタートしました。同プログラムは鉄道を題材に環境や暮らしについて理解してもらうプログラムで、2011年度は、東京都や埼玉県の小学校を中心に7校実施しました。引き続き取り組みを進めていく予定です。



八王子市の小学校で出前授業を実施

鉄道博物館にて環境講座を実施

鉄道博物館において、2回目となる小学生を対象とした、「環境にやさしい鉄道講座」を開設しました。地球が抱える環境問題を鉄道を通じて学ぶとともに、駅や車内のゴミの分別体験によりリサイクルの大切さを学んでいただきました。



鉄道博物館で実施した「環境にやさしい鉄道講座」

他企業と連携した環境イベントを開催

当社の環境の取り組みを分かりやすく説明し、お客さまと直接コミュニケーションを図ることを目的として、東京ガス(株)と「東京ガスとJR東日本の環境への取り組み展 第9回ガス&レールウェイ～親子で知っ得 ガスと鉄道のエコと省エネ～」を、「がすてなーに ガスの科学館」にて共催しました。

当日は、「ガス」と「鉄道」の環境にやさしいポイントや省エネルギーの取り組みを紹介したほか、環境について楽しく学べる参加体験型イベントや実物展示等も行いました。

VOICE

当校教員とJR東日本社員の共同作業で「連携授業」を実施しました

私は、JR東日本さんと共同で実施した今回の取り組みを「出前授業」ではなく「連携授業」と呼びたいと思っています。通常、企業の方からご提案いただく出前授業というものは、内容がすべて事前に決まっています。社員の方がその日1日だけ先生となって専門知識を講義していただくというスタイルです。しかも、多くの場合、子どもが調べる活動を取り入れると6時間ぐらいかかりそうな内容を1時間説明して終わってしまう。そういうことが起こりがちです。

しかし、JR東日本さんと行った「連携授業」は、「バッティングティーチ」といって、小学校側の学級担任とJRの社員の方が協力して一緒に授業を作り上げていく異色のものでした。さらに、対象となった5年生の全クラスでそれぞれ3時間ずつ実施していただきました。JR東日本の社員の方は、ほとんど1週間、当小学校に張り付きで授業をしてくださいました。これも、企業の出前授業としては、異例のことだと思います。JRの制服姿のまま給食も一緒に食べていただきましたし、教室にずっと居ていただきました。それは、子どもたちの関心を大いに高めたことでしょう。



学んだ内容は、大きく分けて二つ。ひとつは、昨年の東日本大震災のような災害時における鉄道の情報ネットワークと伝達の仕組み、もうひとつは、乗車券が紙のきっぷから『Suica』というICカードに変わること、地球環境にどのような良い影響があるのかということです。

2010年から2年間実施してきて課題と感じたことは、どうしても企業の方が「効率よく」と考えてしまうことですね。「どうしても短い時間により多くの内容を伝えられるか」という発想になりがちです。学校からすれば、内容は少なくてもいいんです。むしろ、子どもたちがみんなでじっくり考える事のできる機会を望んでいます。全体的に企業からの提案は、内容過多になる傾向があります。

しかし、JR東日本さんとは、少しずつ擦り合わせをしてそのハードルを乗り越えることができました。私たちがJR東日

本さんをパートナーに選んだ理由は、「一緒にいいものを作り上げたい」という姿勢を見せていただいたことに尽きます。子どもたちにとっても、貴重な学びの機会となり、充実した時間を過ごさせていただいたと思っています。一方で、JR東日本さんには、私たちと共に培った「連携授業」のノウハウを他の学校でも役立てていただければ、両者にとってメリットのある取り組みになったのではないのでしょうか。

私たち教員にとっても、今回の取り組みは大きな価値をもたらしました。それは、もう一度授業というものを改めて見直す機会になったことです。授業というものは、子どもたちがその内容を身近に感じて関心を持ち、自ら問題解決に努める過程を経て、自分自身で内容を習得する。そういう方が望ましいわけです。そのため、今回も子どもたちが自ら体験できる内容とすることに最も心を砕きました。この「連携授業」では、子どもたち自身が与えられたテーマについて自ら考え、自分で解決していくという理想の形ができたのではないかと考えています。



さいたま市立城北小学校
教頭

こんどう
金銅 孝 先生

環境と社会に対する取り組みを伝える広報

JR東日本における環境と社会に対する取り組みを正確かつわかりやすく伝えることを目的として、「環境報告書(2002年から「社会環境報告書」)」を1996年から継続して発行しています。

また、雑誌やテレビCMなど、メディアを通じた情報発信や、ホームページやポスター、パンフレットによる環境に関する取り組みの紹介なども行っています。



節電キャンペーンポスター



企業広告ポスター
「地域と共生する鉄道」
(テレビCMも放映)



「エコステ」パンフレット



環境絵本

エコツーリズム

観光を通じて、日本の自然や文化への愛着を深めていく「エコツーリズム」。首都圏で開催した世界遺産の白神山地の魅力をお伝えする「白神山地出前講座」では約500名、現地で開催している「ブナの学校」ツアーには約40名の参加がありました。また、各地の駅を拠点にした「駅からハイキング」も継続して実施し、2011年度は626コースを設定、約20万名の方にご参加いただきました。その中で、エネルギー資源を有効活用している施設を巡るコースや、海岸ゴミ拾いなどを行程中に盛り込んだ「エコからハイキング」も設定し、合計約250名の参加がありました。



ブナ林の中に真っ青な水をたたえる青池



ニツ森での植樹体験



ブナの自然林での体験